



▲ 西教寺・この寺の左側に碑は建立された

めると、船舶の水元案内人達も六連島を基地として常駐するようになる。外国人パイロットがしばし院家（注・蓬山院家）を訪ね歓談に興じていたある日、盃に注ごうとした酒が誤って小鉢にこぼれた。院家は黙って小鉢の

生ウニを口にふくんだ。とたんに「これだ！」と思った。ウニがこれほど美味であったとは。まろやかな風味が口の中に広がったのである。

ポトルを手にして見ると、アムステルダム・オランダの刻印があるアルコール度数四十五度のジンであった。さつそく島一番のうに業者城戸久七氏に話し、試作させた。城戸は更に研究を重ねて独特の秘法を生み出し安易な模倣者には追隨を許さなかつたとか。これが

今日全国総生産高百億円ともいわれる加工うにの始まりである。――（後略）

またこの記の中に上田玲子様の夫の祖父（上田甚五郎）のことで――うに甚の創業者上田甚五郎は、下関市六連島の生まれで、城戸久七氏に弟子入し、三十一歳で秘伝法皆伝を授かつたと聞く。――とも記されてある。

なお、この内容を証明する「名産六連島雲丹ノタメニ」と題したうに甚秘蔵の古文書がある。

したがって、この碑の建立は、今日がある



▲ 碑建立者 うに基本舗(株)上田弘志社長と専務の玲子さん

のも・城戸久七翁のお蔭であると、人として道を遂行される善行者、うに基本舗(株)取締役社長上田弘志・同社取締役専務上田玲子御両人の誠意による事業であった。

平成八年十月二日。何事をするにも決断すれば、燃焼に至らないと気が済まぬ私の性格から、失礼ながら揮毫の催促をお願いして急がせ、揮毫者の神奈川県麻生区王禅寺町在住の書家、宮永耕堂氏（上田玲子様の姉の主人）からの郵送が届くと直ぐに上田様が持参